

港北区災害ボランティア連絡会 News



事務局 〒222-0032 横浜市港北区大豆戸町13-1吉田ビル206 港北区社会福祉協議会

TEL 045-547-2324 FAX045-531-9561

FB 港北区災害ボランティア連絡会

106号

2022年7月



- *入会は随時受け付けています。
- *あなたの町の防災度を高めるためにお力を貸してください。

観測史上初の...

「平年並み」の言葉が聞きたい

今年の梅雨明けは異例の早さでした。その後の猛烈な暑さも異例です。最近の天候の変化は私たちの感覚とは離れた感じがします。「いつの時代も『近頃どうもおかしい』と言われるのが若者、言葉、天気です」とは気象キャスターとしてNHKで活躍したお天気博士の倉嶋厚さんの持論だそうです。天候の変化は長期的視点で見ないといけなと言われても、最近の雨の降り方、気温の高まり、台風の襲来の変化や強力化などどう見てもおかしいとしか言いようがありません。

梅雨がないと言われていた北海道で梅雨前線が大雨を降らしています。最近の変化は明らかに地球温暖化です。その温暖化の原因は人間の活動によるエネルギーの大量消費が原因です。「もっと便利に」「もっと安く」「もっと大量に」「もっと…」と求めた結果です。



横浜市HPより

「防災」を広く考えよう

私たちの活動は「防災ボランティア」と言えるでしょう。災害時の活動もするけれど、日常の防災活動に重点を置いているからです。その防災活動と地球温暖化は無関係でしょうか。

国連が提唱しているSDGsの14番目は「海の豊かさを守ろう」15番目は「陸の豊かさを守ろう」です。プラスチックゴミをなくす、砂漠化を防ぐなど地球の生態系を守る活動です。プラスチックゴミは私たちがその便利さだけに目を向けた結果生まれました。無秩序に森林を破壊した結果、動物の間だけに保有されていたウイルスが人間にまで広がったのが新型コロナウイルスです。

災害を防ぐためには私たちの生活の有り様を見つめ直すことが必要ではないでしょうか。防災活動をより広い視点から見つめることが求められています。



(宇田川)

雹への備えに 毛布を1枚

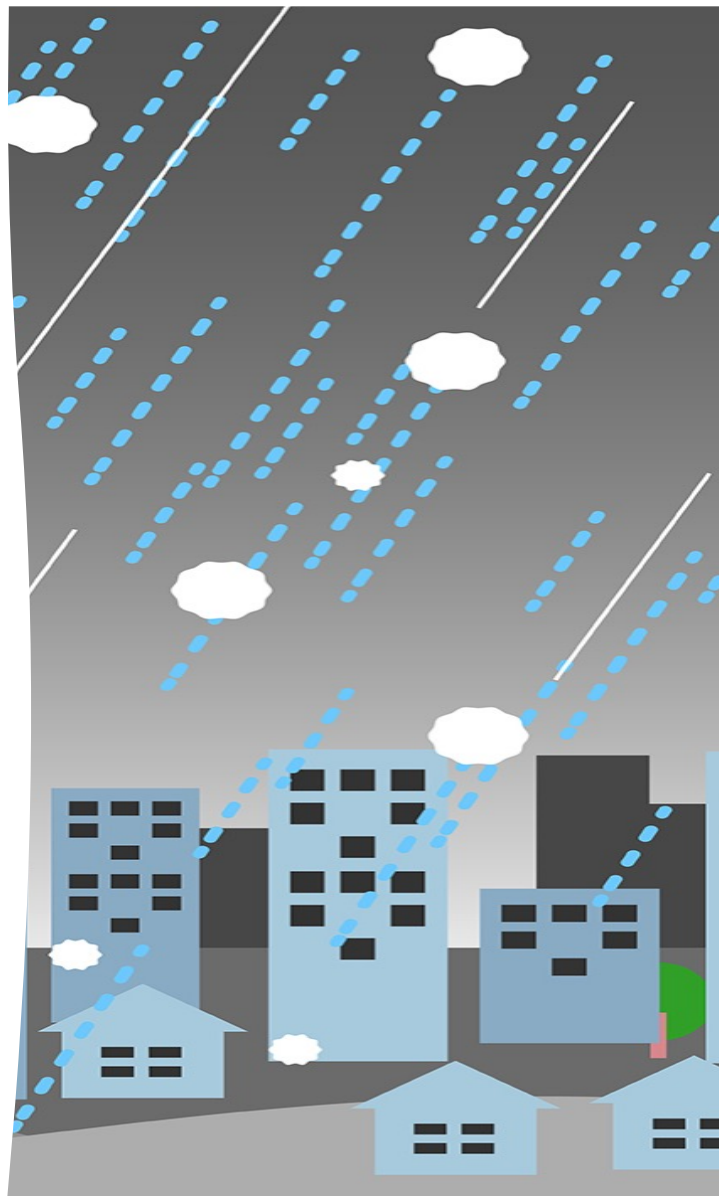
最近、関東地区でも雹の被害が報告されています。雹が傘を突き破ったり、青空駐車車のボディがボコボコになっていることでした。さらには、カーポートの屋根も突き破っていることです。

車は修理すればいいだろうと、お考えかもしれませんが、そう簡単にはいきません。現在、新型コロナウイルスや国際情勢の影響で、車の部品はそう簡単には手に入らないのが現実です。加えて、車の屋根といった部品は、なおさら手に入りにくいのです。ニュースでは、修理代が百万円を上回るケースも出ているそうです。

「車は車両保険に入っているので安心」とお考えかもしれませんが、修理額が保険金額を上回れば、差額は自腹になります。また、一部の車両保険では、雹などの被害は免責になっている場合があるので、その場合全額自腹になります。

こうした損失を少しでも軽減するには、雹が降る予報が出た場合、車に毛布をかけて、雹のショックを和らげる方法があります。雹や雨で毛布が濡れるので、後片付けは大変ですが、高額な自腹負担よりは、いくらかはマシなのではないでしょうか。

「まさかこんな事が」と思うことが起きてしまうのが、自然災害です。地震や大雨だけでなく、このような事が現実にあります。「所詮は他人事」などと思わず、「明日は我が身」の気持で備えを進めましょう。(岩撫)



イラストは、イラストAC (<https://www.ac-illustr.com>) より使用許諾を得ています(禁無断転載)

雹による被害は「火災保険」で・・・

火災保険は、決して「火事」だけが対象ではありません。契約によって、対象となる事故は異なりますが、一部の通販による「選択型」火災保険を別にすれば

- ・火災、落雷、破裂、爆発
- ・雹災、雪災、風災

は、基本的に保険金支払いの対象になります。契約時に交付されている「重要事項説明書」で自宅の火災保険の内容を、しっかりと再確認しておきましょう。「重要事項説明書」が見つからない時は、保険会社のサポートセンターに電話して取り寄せるといいと思います。

雹で怪我をした時は、傷害保険や生命保険で保険金の請求が可能です。ただ、1日の通院から補償の対象となるものや、入院のみ補償の対象となるものなど、様々です。ここでも「重要事項説明書」の“お取り寄せ”が必要かもしれませんね。

一方、車の損害は「車両保険」に加入していない限り、補償の対象とはなりません。車の修理費用も高額になります。盗難も多くなっています。車両保険、確かに高いですが本当に「不要」かどうかは、よく考えてみましょう。(中島)

「まけないぞう」が支える人々



阪神淡路大震災の避難所から始まった、象の顔をしたお手拭きタオル「まけないぞう」は今まで多くの被災者の心を慰めてきました。心を支えるだけでなく1匹につき100円の制作費を大事に貯めている方が大勢います。東日本大震災被災地で今なお作り続けられているのです。

この「まけないぞう」活動を進めている神戸の被災地NGO協働センターはロシアのウクライナ侵略で日本に避難してきた方への支援を始めました。同じく神戸に拠点を持つCODE(海外災害援助市民センター)が行うウクライナ避難民支援活動を支えるために始めたのが「MOTTAINAI野菜」です。

これは「まけないぞう」の売上金をもとに兵庫県内の農家さんから食べられるけれども市場出荷規格から外れた野菜を買い付けて、避難してきて兵庫県内に暮らすウクライナの方々へ配る活動です。

定例会でもお知らせしましたが、会員の方が購入するだけでなく周りの方に積極的に広めていただけると嬉しいです。

(宇田川)

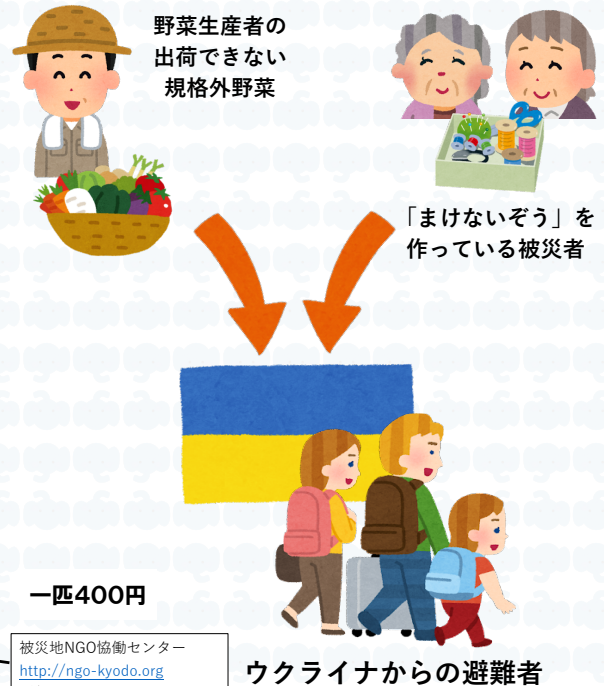
被災地NGO協働センターが扱っています
ホームページ <http://ngo-kyodo.org>

「まけないぞう」は

ウクライナから避難した方々を支援します



三方一両得の MOTTAINAI 野菜の支援方法



【改めて見た東日本大震災の映像】

6月定例会で、改めて東日本大震災の映像を会員の皆さんと見ました。私自身は特に被災していませんが、その時の自分の状況を鮮明に思い出しました。

玄関先で知人と話をしていた時にとっても大きな揺れが来ました。玄関のドアにつかまって、大きく揺れている電線を見ながらも、「すぐ収まるだろう」とたぶん思いながら話を続けていました。しかしこの大きな揺れは収まらず、知人にも家に戻るよう促し、私も家の中に入りました。テレビのスイッチをすぐ入れ、動けず、ズーッと見続けました。夕方になり急に明日の食パンを買いに出ました。すでに遅し、ほとんどの品物がありませんでした。私は出遅れたのです。

そのころ私は、買い物の便利な所で生活していたこともあり、買い置きは殆どしていません。次の日から買出しに精を出しました。そしてこの災害を境にして、備蓄(食物だけでなく)に少し力を入れるようになりました。やはり、体験・経験がとても大切ですね。これからは、皆さんをお助けできる年齢ではなくなっていると思うので、自分の事だけでも守れるよう、今までより一層防災・減災に心がけていこうと思います。

(付岡)

※ 2011年3月11日 東日本大震災 発生の瞬間映像集 (下記URLからご覧いただけます)

<https://www.youtube.com/watch?v=McijOGWmTTk>

1. 私は、登山が好きで、15年前ぐらいまでは、家内と一緒に、度々登山に出掛けていました。連泊する時には、山小屋に泊まりました。しかし、連泊であっても途中、避難小屋に泊まることもありました。

避難小屋では、炊事道具は備えられていませんので、その時は、例えば、アルファ米の

(1) 白飯

(2) 山菜ごはんなどを食べました。

アルファ米のものは、他には、ドライカレー、海老ピラフやチキンライスなど種類が豊富です。災害発生時の場合、カセットコンロが使えるれば、これを使い、これが使えない場合は、山で使用したガスボンベでお湯を沸かし、アルファ米にお湯、若しくは水を入れて、出来上がりを待ち、食します。

お湯の場合は、160mlで15分間、水の場合は60分必要です。

私たちは、登山の時に食べましたが、有事の時は、お腹が空いている場合は、それなりに食べられると思います。

サバ缶や鮭缶などがあると、より美味しく食べること出来ると思います。

2. もう一つ、普通のカップラーメンの事について、お話しします。これは、試しに、水だけで作って食べて見ました。

普通は、熱いお湯を入れて3分間待てば、美味しく食べることが出来ますが、災害時を想定しての結果をお知らせします。

作り方は、至って簡単です。カップラーメンの蓋を一部剥がして、そこに、水(ペットボトル)を目盛りまで注ぎ込み、待つこと1時間。そして、1時間経過しましたので、食しましたが、仕方がないとは言え、普通のカップラーメンと比べると、冷たくて美味しくなかったです。特に、寒い秋・冬場は止めた方が良いでしょう。

やはり、お湯で温かいものの方が良く、身体が温まります。(宮腰)

アルファ米については、下記尾西食品のホームページで、いろいろなものを見ることができます

<https://www.onisifoods.co.jp/products/>

防災コラム ～熱中症も災害？～

地震・洪水・土砂崩れ・コロナ感染に続く……。

やっとコロナが下火になってきたと思いきや、梅雨は早々に、気温上昇が急に訪れ、熱中症という災害に襲われています。物価上昇、電力量逼迫により電力需給逼迫注意報。「熱中症予防」と「電力注意報」皆さんはどちらを選択しますか？やはり、自分の命を守りたいですね。経産省では、熱中症にならないように暑い時間はしっかり冷房を活用することを勧めています。又、照明を間引くことや、使っていない電気機器のプラグを抜くことを求めています。熱中症を引き起こす脱水症状の一步手前である「かくれ脱水」にいち早く気づき、対処したいです。

(付岡)

熱中症予防のための情報・資料サイト(厚生労働省)

https://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/nettyuu/nettyuu_taisaku/

【編集後記】

※「またかこんな事が」と思っているのが自然災害です。(岩撫)

※洪水のニュース、他人事ではありません。雨は都合よく降ってくれません。怖いです。備えをしっかりとるしかありません。(付岡)

※6月下旬から記録的な猛暑。この夏、大きな台風や豪雨、竜巻などが発生しないことを願いたいです。備えだけはしっかりしておきたいですね。(鴨下)

※港北国際交流ラウンジでの日本語教室にもウクライナ避難の方が何名かいらしています。皆で支援していきたいです。(室伏)

※熱中症と感染症対策、相反するニーズをどう両立させるか。悩み多き夏です。(中島)